

1 参考文献

1.1 スタイル・マニュアル

本書に記載されていない項目については、『The Chicago Manual of Style』（以降『CMOS』）の最新版に従うこと。

1.2 辞書

専門用語以外の言葉の定義およびスペルについては、『Merriam-Webster.com Dictionary』（<https://www.merriam-webster.com/>）（以降『MWD』）を使用すること。

2 ローマ字表記

2.1 日本語

2.1.1 基本ルール

ローマ字表記方法は以下の表を参考にする。

a	(ア)	i	(イ)	u	(ウ)	e	(エ)	o	(オ)
ka	(カ)	ki	(キ)	ku	(ク)	ke	(ケ)	ko	(コ)
sa	(サ)	shi	(シ)	su	(ス)	se	(セ)	so	(ソ)
ta	(タ)	chi	(チ)	tsu	(ツ)	te	(テ)	to	(ト)
tsa	(ツァ)	ti	(ティ)	tu	(トゥ)	tse	(ツエ)	tso	(ツォ)
na	(ナ)	ni	(ニ)	nu	(ヌ)	ne	(ネ)	no	(ノ)
ha	(ハ)	hi	(ヒ)	fu	(フ)	he	(ヘ)	ho	(ホ)
fa	(ファ)	fi	(フィ)			fe	(フェ)	fo	(フォ)
ma	(マ)	mi	(ミ)	mu	(ム)	me	(メ)	mo	(モ)
ya	(ヤ)			yu	(ユ)			yo	(ヨ)
ra	(ラ)	ri	(リ)	ru	(ル)	re	(レ)	ro	(ロ)
wa	(ワ)								

ga	(ガ)	gi	(ギ)	gu	(グ)	ge	(ゲ)	go	(ゴ)
za	(ザ)	ji	(ジ)	zu	(ズ)	ze	(ゼ)	zo	(ゾ)
da	(ダ)	ji di	(ヂ) (ディ)	du zu dyu	(ヅ) (ドウ) (デュ)	de	(デ)	do	(ド)
ba	(バ)	bi	(ビ)	bu	(ブ)	be	(ベ)	bo	(ボ)
pa	(パ)	pi	(ピ)	pu	(プ)	pe	(ペ)	po	(ポ)
kya	(キャ)			kyu	(キュ)			kyo	(キョ)
sha	(シャ)			shu	(シュ)	she	(シェ)	sho	(ショ)
cha	(チャ)			chu	(チュ)	che	(チェ)	cho	(チョ)
nya	(ニャ)			nyu	(ニユ)			nyo	(ニョ)
hya	(ヒャ)			hyu fyu	(ヒュ) (フュ)			hyo	(ヒョ)
mya	(ミャ)			myu	(ミユ)			myo	(ミョ)
rya	(リャ)			ryu	(リュ)			ryo	(リョ)
gya	(ギャ)			gyu	(ギユ)			gyo	(ギョ)
ja	(ジャ)			ju	(ジュ)	je	(ジェ)	jo	(ジョ)
bya	(ビャ)			byu	(ビュ)			byo	(ビョ)
pya	(ピャ)			pyu	(ピュ)			pyo	(ピョ)

上記の表は『研究社 新和英大辞典』第五版を元に作成されている。

「b」、「m」、と「p」の前には「m」ではなく「n」を使うこと。

新聞	○ <i>shinbun</i>	× <i>shimbun</i>
天平	○ <i>Tenpyō</i>	× <i>Tempyō</i>
天武	○ <i>Tenmu</i>	× <i>Temmu</i>

次の音節が「y」または母音で始まる場合、「n」の後にアポストロフィを使用すること。

万葉集	○ <i>Man'yōshū</i>	× <i>Manyōshū</i>
純一郎	○ <i>Jun'ichirō</i>	× <i>Junichirō</i>
善意	○ <i>zen'i</i>	× <i>zeni</i>

促音を表記するには、該当する子音の最初の文字を重ねて表記すること。長子音の「ch」には「tch」を使うことも可能。

毬杖	<i>gicchō</i>	または	<i>gitchō</i>
木簡	<i>mokkan</i>		
骨董品	<i>kottōhin</i>		
漆器	<i>shikki</i>		
実測図	<i>jissokuzu</i>		

形態素（意味をもつ最小言語単位）の境界を超えない範囲で、長音を形成する隣接する母音を示すにはマクロンを使用すること。ほとんどの場合、新しい漢字は新しい形態素の始まりに重なる。

新嘗祭	<i>Nīnamesai</i>
委員会	<i>iinkai</i>
鳳凰	<i>Hōō</i>
鳥居	<i>torii</i>
シーサー	<i>shīsā</i>
呉音	<i>goon</i>
灯籠	<i>tōrō</i>
ビール	<i>bīru</i>

九博
奈文研

長子音の「ch」に必ず「cch」を使うこと。

2.1.2 日本語由来の英単語

「bonsai」「rickshaw」「origami」「Bunraku」など、日本語由来の英単語は、日本語のローマ字表記ではなく、英訳として扱うこと。これらの英単語に関しては、『MWD』に見られるスペルや大文字表記に従い、イタリック体にはしないこと。『MWD』に複数の表記例がある場合は、解説文がついているエントリーの表記例を使用すること。『MWD』に掲載されているにも関わらず、その単語が想定読者になじみがないと判断された場合は、日本語をローマ字化して説明を加えるか、別の訳し方を検討すること。

頻出日本語由来の英単語（スペルと大文字表記は『MWD』による）

aikido, adzuki bean, anime, banzai, bento box, bonsai, Bunraku, Bushido, daikon, daimyo, dashi, dojo, enoki mushroom, emoji, fugu, fusuma, futon, geisha, geta, genro, ginkgo, Go, haiku, hara-kiri, hibachi, hiragana, ikebana, Imari, inro, judo, jujitsu, Kabuki, kakemono, kaki, kami, kamikaze, kana, kanji, karaoke, karate, katakana, katana, kendo, kimono, koi, kombu, koto, makimono, manga, matcha, matsutake, medaka, miso, mochi, netsuke, ninja, Noh, nori, nunchaku, obi, origami, pachinko,

ramen, Romaji, sake, salaryman, samurai, sashimi, satori, senryu, seppuku, shamisen, shiatsu, shiitake, Shinto, shogun, shoji, sudoku, sukiyaki, sumi-e, sumo, surimi, sushi, tanka, tatami, tempura, teriyaki, tofu, tokonoma, torii, tsunami, typhoon, udon, ukiyo-e, umami, urushi, wakame, wasabi, yakuza, zaibatsu, Zen, zori

九博 「Kabuki」、「Bunraku」、「Romaji」、「Noh」は大文字化せず、「kabuki」、「bunraku」、「romaji」、「noh」と表記すること。

2.1.3 複数形

ローマ字化した日本語を複数形にしないこと。また日本語由来の英単語も原則複数形にしないこと。

○ Many geisha and samurai
read *kusazōshi*.

× Many geishas and samurais
read *kusazōshis*.

2.2 中国語

漢語拼音を声調符号なしで用いること。

2.3 韓国語

韓国政府によって推奨されている「国語のローマ字表記法」（文化観光部2000年式）を使用すること。

2.4 サンスクリット語

ダイアクリティカル・マーク付きの国際標準サンスクリット表記法 (IAST) を使用すること。ローマ字化されたサンスクリット語は複数形にしないが、「deva」や「guru」など、『MWD』に掲載されているサンスクリット語由来の英単語は複数形にすること。

十羅刹女 ○ the ten demonesses (Skt. *rākṣasī*)
十二天 ○ the twelve devas

× Ten *Rākṣasīs*
× Twelve *Deva*

京博 釈迦如来と釈迦族の表記は、「ś」と「ṣ」を「sh」に変換し、ダイアクリティカル・マークを使用しないこと。

Shakyamuni, Shakya clan

九博 ダイアクリティカル・マークを使用しないこと。「ś」と「ṣ」を「sh」に変換すること。

3 英文における他国語のイタリック体と大文字化

英文における他国語（日本語、サンスクリット語など）の言葉は大文字化せず、イタリック体にすること。

tachi, kosode, makie, tantō, gigaku, bugaku, sugoroku, gicchō

言語に関わらず、固有名詞はイタリック体にせず、大文字化すること。

Reiwa, Ryukyu, Ainu, Shikoku, Kuroda Seiki, Heisei Chishinkan

宮内庁と連携する場合、表記は宮内庁の規定に従うこと。

京博 日本の伝統芸能の英語表記は固有名詞として扱うこと。つまりイタリック体にせず大文字化し、「Gigaku」、「Bugaku」、「Bunraku」、「Kyōgen」などと表記すること。

4 固有名詞と称号

4.1 人名

4.1.1 基本ルール

それぞれの言語のローマ字表記で名前を表記すること。日本人、中国人および韓国人の名前を「姓一名」の順で表記すること。ハイフンが含まれるローマ字表記の場合、ハイフンに続く文字は大文字にしないこと。現代芸術家の場合、本人が使用している表記に従うこと。国際的に知られている現代著名人の場合、最も普及している表記を使うこと。姓は頭文字以外の文字を大文字にしないこと。

尾形光琳

Ogata Kōrin

南啓宇 (남계우)

Nam Gye-u

米芾

Mi Fu
